

各 位

2019年9月3日

会 社 名 ピープル株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役 桐 渕 真人  
 (東証JASDAQ コード: 7865)  
 問合せ先 IR担当 飛田留美子  
 電話 03-3862-2768

(訂正・数値データ訂正)  
 「2020年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

2019年9月2日に発表いたしました「2020年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部に訂正をすべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、数値データにも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。なお、訂正箇所には、下線      を付しております。

記

1. 訂正の理由

2019年9月2日に発表いたしました「2020年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の公表後に記載内容に一部誤りがあることが判明したため、訂正を行うものであります。

2. 訂正の内容

(サマリー情報)

1. 2020年1月期第2四半期の連結業績 (2019年1月21日～2019年7月20日)

(訂正前)

(百万円未満四捨五入)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年1月期第2四半期	1,667	△ 1.9	77	<u>22.6</u>	74	<u>△ 23.9</u>	47	<u>△ 22.6</u>
2019年1月期第2四半期	1,699	—	100	—	97	—	61	—

(注) 包括利益 2020年1月期第2四半期 59百万円 (△17.5%) 2019年1月期第2四半期 71百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2020年1月期第2四半期	10	<u>86</u>	—	—
2019年1月期第2四半期	14	03	—	—

(注) 2018年1月期(期末)より連結財務諸表を作成しているため、2019年1月期第2四半期の対前年増減率については記載していません。

(訂正後)

(百万円未満四捨五入)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年1月期第2四半期	1,667	△ 1.9	77	<u>△ 22.9</u>	73	<u>△ 24.2</u>	47	<u>△ 23.1</u>
2019年1月期第2四半期	1,699	—	100	—	97	—	61	—

(注) 包括利益 2020年1月期第2四半期 58百万円 (△17.9%) 2019年1月期第2四半期 71百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2020年1月期第2四半期	10	<u>79</u>	—	—
2019年1月期第2四半期	14	03	—	—

(注) 2018年1月期(期末)より連結財務諸表を作成しているため、2019年1月期第2四半期の対前年増減率については記載していません。

(添付資料 2 ページ)

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(訂正前)

	第1四半期会計期間 (2~4月度)		第2四半期会計期間 (5~7月度)		第2四半期累計期間 (上半期)	
	(2019年1月21日 ~2019年4月20日)		(2019年4月21日 ~2019年7月20日)		(2019年1月21日 ~2019年7月20日)	
	金額	対前年同期間比	金額	対前年同期間比	金額	対前年同期間比
売上高	770百万円	18.1% 減	896百万円	18.3% 増	1,667百万円	1.9% 減
営業利益	36百万円	66.3% 減	42百万円	- (前年△7百万円)	77百万円	22.6% 減
経常利益	36百万円	66.1% 減	39百万円	- (前年△8百万円)	74百万円	23.9% 減
親会社株主に帰 属する四半期純 利益	23百万円	67.5% 減	26百万円	- (前年△7百万円)	47百万円	22.6% 減

当43期の第2四半期では、改元に伴う大型連休等の影響で個人消費が伸びた一方、米中貿易摩擦による低迷で企業の業績悪化の発表(4~6月期)等が相次ぐ等、国内の景気全般は一層不透明感を深めています。

当社の第2四半期間では、主に海外販売が前年同期の実績を大きく上回り全体の売上を牽引しました。国内市場においても、自転車の好調が当第2四半期まで続き玩具市場の厳しい商況からの下振れを補い推移した為、国内外合わせた当第2四半期会計期間の売上高は8億96百万円、前年同期間対比18.3%増収となりました。当43期第2四半期累計期間の総売上高では16億67百万円、前年同期間対比1.9%減まで第1四半期の減収幅を縮めました。

玩具市場全般にはGW商戦以降厳しい商況が続いていましたが、7月中旬頃になると夏休み商戦で上昇基調も見られ、手堅い売上が獲得する傾向として当社の知育・乳児カテゴリー等の既存定番品を中心にお盆商戦前の出荷増につながりました。又、同カテゴリーでは比較的安定した構成玩具市場において、6月度に「ピタゴラス」シリーズの4品一斉リニューアル発売を行いブランド刷新キャンペーンを開始し、お子様の年齢や能力に合わせ、選びやすく工夫したパッケージ、コンテンツを新たに、専用テーブル等を施した新しい売り場展開が広がっています。又、同構成玩具では、全く新しいポジションで新たなシェア獲得を試みる「JOIZ(ジョイズ)」を2種7月度に同時発売しました。形と動きでお子様の想像力を刺激する世界初の円形ブロックです。

女兒玩具では、低単価コレクタブルトイの流行が影響し、抱き人形やメイキングホビー等は低迷していますが、当社では、当第2四半期の6月度を期限に流通在庫の既存ぼぼちゃんの交換キャンペーンを行い、新しいお顔のぼぼちゃんが全国的に売りに並び、7月度発売新製品を合わせて年末需要に向けた準備を整えています。同様に年末に盛り上がる根強い人気の「DIYトイ ねじハピ」シリーズでは、新しいDIYツール「ペイントスタイル」(3,680円・税抜)やユニセックスで楽しめる「エンジニアスタイル」(3,980円・税抜)を投入して新たなニーズの掘り起こしに挑戦しています。

育児用品では、第1四半期で「テディハグ ママスイング+(プラス)」(オープン価格)を発売後に、テディハグシリーズの急激な需要拡大に供給が間に合わず欠品し、7月度の入荷で一部注文残が解消される等していますが、品薄状態が続いています。

自転車カテゴリーは前年には無かった「ケッターサイクル」(各種・オープン価格)の好調が牽引し、当第2四半期累計期間の売上増に寄与しました。

海外販売では当第2四半期から米国向け「Magna-Tiles」の既存品の本格出荷を開始した事に加え、遊びの幅を広げる新製品「METROPOLIS」(小売価格 US\$130)等の高額品のまとまった出荷が前年度に無い商品として売上増となっている他、中国向けにおいても「やりたい放題ビッグ版」や「お水の知育」等の前年に無い出荷増等も貢献しています。

以上のように第1四半期の減収を第2四半期間で補いながら、第2四半期期間累計の営業利益は77百万円 前年同期間対比22.6%減、経常利益は74百万円 前年同期間対比23.9%減、親会社株主に帰属する四半期純利益は47百万円 前年同期間対比22.6%減と、第1四半期の減収幅を縮めて推移しています。

(訂正後)

	第1四半期会計期間 (2~4月度)		第2四半期会計期間 (5~7月度)		第2四半期累計期間 (上半期)	
	(2019年1月21日 ~2019年4月20日)		(2019年4月21日 ~2019年7月20日)		(2019年1月21日 ~2019年7月20日)	
	金額	対前年同期間比	金額	対前年同期間比	金額	対前年同期間比
売上高	770百万円	18.1% 減	896百万円	18.3% 増	1,667百万円	1.9% 減
営業利益	36百万円	66.3% 減	42百万円	- (前年△7百万円)	77百万円	22.9% 減
経常利益	36百万円	66.1% 減	38百万円	- (前年△8百万円)	73百万円	24.2% 減
親会社株主に帰 属する四半期純 利益	23百万円	67.5% 減	26百万円	- (前年△7百万円)	47百万円	23.1% 減

当43期の第2四半期では、改元に伴う大型連休等の影響で個人消費が伸びた一方、米中貿易摩擦による低迷で企業の業績悪化の発表(4~6月期)等が相次ぐ等、国内の景気全般は一層不透明感を深めています。

当社の第2四半期間では、主に海外販売が前年同期間の実績を大きく上回り全体の売上を牽引しました。国内市場においても、自転車の好調が当第2四半期まで続き玩具市場の厳しい商況からの下振れを補い推移した為、国内外合わせた当第2四半期会計期間の売上高は8億96百万円、前年同期間対比18.3%増収となりました。当43期第2四半期累計期間の総売上高では16億67百万円、前年同期間比1.9%減まで第1四半期の減収幅を縮めました。

玩具市場全般にはGW商戦以降厳しい商況が続いていましたが、7月中旬頃になると夏休み商戦で上昇基調も見られ、手堅い売上を獲得する傾向として当社の知育・乳児カテゴリー等の既存定番品を中心にお盆商戦前の出荷増につながりました。又、同カテゴリーでは比較的安定した構成玩具市場において、6月度に「ピタゴラス」シリーズの4品一斉リニューアル発売を行いブランド刷新キャンペーンを開始し、お子様の年齢や能力に合わせ、選びやすく工夫したパッケージ、コンテンツを新たに、専用テーブル等を施した新しい売り場展開が広がっています。又、同構成玩具では、全く新しいポジションで新たなシェア獲得を試みる「JOIZ(ジョイズ)」を2種7月度に同時発売しました。形と動きでお子様の想像力を刺激する世界初の円形ブロックです。

女兒玩具では、低単価コレクタブルトイの流行が影響し、抱き人形やメイキングホビー等は低迷していますが、当社では、当第2四半期の6月度を期限に流通在庫の既存ぼぼちゃんの交換キャンペーンを行い、新しいお顔のぼぼちゃんが全国的に売り場に並び、7月度発売新製品を合わせて年末需要に向けた準備を整えています。同様に年末に盛り上がる根強い人気の「DIYトイ ねじハピ」シリーズでは、新しいDIYツール「ペイントスタイル」(3,680円・税抜)やユニセックスで楽しめる「エンジニアスタイル」(3,980円・税抜)を投入して新たなニーズの掘り起こしに挑戦しています。

育児用品では、第1四半期で「テディハグ ママスイング+(プラス)」(オープン価格)を発売後に、テディハグシリーズの急激な需要拡大に供給が間に合わず欠品し、7月度の入荷で一部注文残が解消される等していますが、品薄状態が続いています。

自転車カテゴリーは前年には無かった「ケッターサイクル」(各種・オープン価格)の好調が牽引し、当第2四半期累計期間の売上増に寄与しました。

海外販売では当第2四半期から米国向け「Magna-Tiles」の既存品の本格出荷を開始した事に加え、遊びの幅を広げる新製品「METROPOLIS」(小売価格 US\$130)等の高額品のまとまった出荷が前年度に無い商品として売上増となっている他、中国向けにおいても「やりたい放題ビッグ版」や「お水の知育」等の前年に無い出荷増等も貢献しています。

以上のように第1四半期の減収を第2四半期間で補いながら、第2四半期期間累計の営業利益は77百万円 前年同期間対比22.9%減、経常利益は73百万円 前年同期間対比24.2%減、親会社株主に帰属する四半期純利益は47百万円 前年同期間対比23.1%減と、第1四半期の減益幅を縮めて推移しています。

## (添付資料5 ページ)

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(訂正前)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月21日 至 2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月21日 至 2019年7月20日)
売上高	1,698,693	1,666,604
売上原価	1,027,779	1,022,709
売上総利益	670,914	643,895
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	92,023	74,802
販売促進費	68,850	61,793
運賃	67,936	74,944
役員報酬	37,154	32,903
給料及び手当	84,080	88,763
退職給付費用	-	6,494
支払手数料	44,684	49,794
研究開発費	79,034	81,330
その他	97,230	95,716
販売費及び一般管理費合計	570,990	566,538
営業利益	99,924	77,357
営業外収益		
受取利息	58	57
受取配当金	1,732	1,981
その他	69	99
営業外収益合計	1,859	2,137
営業外費用		
為替差損	4,795	5,733
その他	0	0
営業外費用合計	4,795	5,733
経常利益	96,988	73,761
税金等調整前四半期純利益	96,988	73,761
法人税、住民税及び事業税	25,778	17,678
法人税等調整額	9,853	8,594
法人税等合計	35,631	26,272
四半期純利益	61,357	47,489
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,357	47,489

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月21日 至 2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月21日 至 2019年7月20日)
四半期純利益	61,357	47,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,470	10,661
為替換算調整勘定	163	419
その他の包括利益合計	9,633	11,080
四半期包括利益	70,990	58,569
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,990	58,569

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月21日 至 2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月21日 至 2019年7月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	96,988	73,761
減価償却費	17,658	23,560
売上債権の増減額 (△は増加)	204,578	89,651
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△25,943	△64,139
仕入債務の増減額 (△は減少)	100,064	45,248
その他	△21,952	9,658
小計	371,394	177,740
利息及び配当金の受取額	1,790	2,038
法人税等の支払額	△107,589	△113,520
営業活動によるキャッシュ・フロー	265,595	66,258
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△24,807	△51,838
無形固定資産の取得による支出	-	△650
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,807	△52,488
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△282,075	△271,332
その他	75	294
財務活動によるキャッシュ・フロー	△282,000	△271,038
現金及び現金同等物に係る換算差額	308	410
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△40,904	△256,858
現金及び現金同等物の期首残高	1,524,600	1,550,355
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,483,696	1,293,496

(訂正後)

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年1月21日 至2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年1月21日 至2019年7月20日)
売上高	1,698,693	1,666,604
売上原価	1,027,779	<u>1,022,985</u>
売上総利益	670,914	<u>643,619</u>
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	92,023	74,802
販売促進費	68,850	61,793
運賃	67,936	74,944
役員報酬	37,154	32,903
給料及び手当	84,080	88,763
退職給付費用	-	6,494
支払手数料	44,684	49,794
研究開発費	79,034	81,330
その他	97,230	95,716
販売費及び一般管理費合計	570,990	566,538
営業利益	99,924	<u>77,081</u>
営業外収益		
受取利息	58	57
受取配当金	1,732	1,981
その他	69	99
営業外収益合計	1,859	2,137
営業外費用		
為替差損	4,795	5,733
その他	0	0
営業外費用合計	4,795	5,733
経常利益	96,988	<u>73,485</u>
税金等調整前四半期純利益	96,988	<u>73,485</u>
法人税、住民税及び事業税	25,778	17,678
法人税等調整額	9,853	8,594
法人税等合計	35,631	26,272
四半期純利益	61,357	<u>47,213</u>
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,357	<u>47,213</u>

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月21日 至 2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月21日 至 2019年7月20日)
四半期純利益	61,357	47,213
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,470	10,661
為替換算調整勘定	163	419
その他の包括利益合計	9,633	11,080
四半期包括利益	70,990	58,293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	70,990	58,293

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月21日 至 2018年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月21日 至 2019年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	96,988	73,485
減価償却費	17,658	23,560
売上債権の増減額 (△は増加)	204,578	89,651
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△25,943	△64,139
仕入債務の増減額 (△は減少)	100,064	45,248
その他	△21,952	9,658
小計	371,394	177,464
利息及び配当金の受取額	1,790	2,038
法人税等の支払額	△107,589	△113,245
営業活動によるキャッシュ・フロー	265,595	66,258
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△24,807	△51,838
無形固定資産の取得による支出	-	△650
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,807	△52,488
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△282,075	△271,332
その他	75	294
財務活動によるキャッシュ・フロー	△282,000	△271,038
現金及び現金同等物に係る換算差額	308	410
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△40,904	△256,858
現金及び現金同等物の期首残高	1,524,600	1,550,355
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,483,696	1,293,496